

## オスカー・ワイルド (Oscar Wilde)

1854～1900

オスカー・ワイルドは、本名オスカー・フィンガル・オフラハティ・ウィリス・ワイルド (Oscar Fingal O'Flahertie Willis Wilde) といい、アイルランド系の英国の詩人・小説家・劇作家・評論家である。父親は眼科医で考古学者。母親はアイルランド愛国主義者の詩人であり、アイルランドの民間伝承の研究者・再話家としても著名で、「レディ・ワイルド」または「スペランザ」という筆名でもよく知られている。30歳(1884)の時にコンスタンス・ロイドと結婚。翌年長男のシ ril が、次の年に次男のヴィヴィアンが生まれる。この二人の子供を可愛がったワイルドは、父親としてさまざまな物語を語って聞かせ、それらは『幸福な王子、その他の物語』The Happy Prince and Other Stories (1888年)と『ざくろの家』A House of Pomegranates (1891年)の2冊の童話集としてまとめられた。アイルランド人独特の幻想的な想像力や機知に富む表現で、アンデルセン童話がもつ北欧の情趣に似た哀愁の漂う物語の世界を作り上げている。これらの作品と平行して小説『ドリアン・グレイの肖像』The Picture of Dorian Grey (1891年)、フランス語の劇『サロメ』Salome (1892年)などを発表。また一連の社会風刺劇『ウィンダミア夫人の扇』Lady Windermere's Fan (1892年)、『真面目が肝心』The Importance of Being Earnest (1895年)の劇作家としても知られている。

## ウィリアム・バトラー・イエイツ (William Butler Yeats)

1865～1939

アイルランド・ダブリンの郊外、サンディマウントに生まれる。父親は画家修業でロンドンとダブリンを行き来しており、幼年期は母方の故郷スライゴーなどで過ごした。このとき、その土地に伝わる民話などに触れる。22歳のイエイツは、編集者からアイルランド民話の編集を依頼され、アイルランドの農民や漁民のあいだに語られていた話や民間伝承を編纂し、それらは『アイルランド農民の妖精物語と民話』The Fairy Tales of the Irish Peasantry (1888年)、『アイルランド妖精物語』The Fairy Tales in Ireland (1892年)として出版された。その採話、再話家は、クロフトン・クローカー、ダグラス・ハイド、レディ・ワイルド(オスカー・ワイルドの母)、等で、妖精や人魚、魔女、巨人のさまざまな物語が収められており、イエイツはそれらを種類別に分類し、解説している。また、この書は19世紀アイルランドの文芸復興運動を促進させた。このほか採集した書には『ケルトの薄明』The Celtic Twilight (1893年)があり、日本の能に影響を受けたと言われている『鷹の井戸』At the Hawk's Well (1917年)などの戯曲もある。1892年にはアイルランド文芸協会を設立し、1923年にはノーベル文学賞を受賞している。

## ウィリアム・シェイクスピア (William Shakespeare)

1564～1616

エリザベス朝時代最大の劇作家、俳優、詩人。十分な記録資料が現存せず、その生涯は推定の域を出ないが、4月23日誕生、26日受洗の記録はあるとされている。イングランド中部の町ストラットフォード＝アボン＝エイヴォンに生まれ、商人で町の有力者(一説に手袋商人)の父ジョンと、母のメアリー・アーデンの8人の子どもの3番目で長男。シェイクスピアはロンドンで活躍中の27年間に、37篇の戯曲と7篇の詩集を残す。その中で『夏の夜の夢』(1595～96年)、『ハムレット』Hamlet (1600～01年)、『マクベス』Macbeth (1605～06年)、『テンペスト』(1611～12年)等、代表作には、登場人物の内面や運命を演じるかのように、妖精、魔女、亡霊ほか超自然的な生き物が重要な役割を果たしている。エリザベス朝時代に流行したパンフレット『ロビン・グッドフェロー、その悪ふざけと陽気ないたずら』Robin Good-Fellow ; his Mad Pranks and Merry Jets (1584年)や、民間伝承や書物における妖精に関する知識に加え、自らにそなわった想像力で、独自の容姿と性質をそなえた彼自身の妖精をつくりあげた。それまで、醜く恐ろしい存在だった妖精たちに、自然の精霊の性質を与え、花々のまわりを飛び回るような小さく美しい容姿に変え、人間に親しい性格にして戯曲に登場させたシェイクスピアの功績は大きい。

## ターロック・オキャロラン (Turlough O'Carolan)

1670～ 1738

アイルランド最後の吟遊詩人と称される伝説的な盲目のハープ奏者。オキャロランは1670年にミース州に生まれる。父親は鍛冶屋で、鉄工所を所有するマクダーモット・ロー家に雇用されたためロスコムン州へ家族と共に移住。マクダーモット・ロー家の庇護の下、若くして詩才の片鱗を見せるも、18歳のときに天然痘にかかり失明する。その後、音楽の分野でその才能を発揮する。マクダーモット・ロー夫人は彼を地元のハープ奏者の見習にし、演奏家として成長した3年後、夫人はハープと馬、介添人をオキャロランに与え、旅に送り出した。彼はアイルランド各地を旅し、ほぼ50年に渡り雇い主のための歌を作り歩いた。代表曲の一つとしてあげられる「シーベグ・シーモア (Sí Bheag, Sí Mhó)」という曲は、「小さい妖精、大きい妖精」という意味である。アイルランドで話されていたゲール語では妖精をシー(Sídh)と呼び、シーという言葉は「妖精」だけでなく、「丘」や「土塚」という意味を持ち、丘の住人というと妖精の事を指す。オキャロランが最初に作曲したのがこの妖精を主題にした曲だったのは妖精の故郷アイルランドならではのことように感じられる。国民的作曲家として人々に愛されたオキャロランは1976年から発行されていたアイルランドの50ポンド紙幣に肖像が使用されていた。